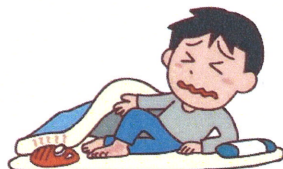


## 「低温やけど・床ずれ予防」について

低温やけど



床ずれ

体温より少し高めの温度に長時間触れるために起こる皮膚(組織)の損傷

《原因》

長時間の圧迫により起こる皮膚(組織)の損傷

うっすらした赤み  
ピリピリした痛み  
水ぶくれ など

いずれも進行度合いにより異なる

《症状》

皮膚の赤み  
水ぶくれや紫斑  
皮ムケ など

通常はやけどより皮膚の損傷が大きいことがあるため早い段階で医療機関への受診をする。応急処置は通常はやけど同様冷やすこと

《対処方法》

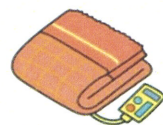
皮膚の下の組織が壊死している可能性もあるためなるべく早めに医療機関へ相談する。

双方に共通していることは『長時間』というキーワードです。

低温やけどは、体温より低い温度でも『長時間』同一部位に熱源が当たっていると受傷します。床ずれも『長時間』同一部位が圧迫(力)されると受傷してしまいます。

特に寒くなってくると、使い捨てカイロや湯たんぽ、電気毛布などを使用します。動くのが億劫になり同じ体勢でテレビを見たり、時にはお昼寝なんてこともあると思います。このため冬は、低温やけどや床ずれができる可能性が非常に高い季節となり十分な注意が必要です。

また床ずれは寝たきりの方ができると思われがちですが、元気に歩ける方にもできることがあります、どの方にも注意が必要です。



同一部位への熱源・圧迫にはご注意を！